



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1940, 20(228): 188-190

ISSUE DATE:

1940-03-25

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/167973>

RIGHT:

觀測部月報

★

東亞天文協會

★ 流星課だより (102)

課長 小 槇 孝 二 郎

五月には、上旬に、ハリ彗星に關聯を有つと言はれる水瓶座流星群の活動が見られる。輻射點は η 星の附近であるが、出現期間中、東方へ移動をする。極大は同月4〜5日頃であるが、10日を過ぎても相當の出現數があつた例がある。本年は、7日が新月にあたる爲、月の邪魔はあまり無いが、北半球に住む我々にとっては、觀測し得る時間は、夜明け前、僅に一時間餘にすぎない。低緯度や南半球の觀測者は觀測に有利である。

× × × × ×

昨年度の觀測がまだ全部出揃はぬ爲、集計の發表は次回にゆづる。前回報告後、受取つた報告は、

川人武正氏 (香川縣觀音寺町)	本年二月分
吉井耕一氏 (廣島縣竹原町)	昨年十月及十一月分
石原 昭氏 (長野縣湖南村)	昨年八月及十二月分

である。吉井氏の十一月の觀測中には牛座流星群のものが多數含まれてゐる。

(1940—3—3)

★ 太 陽 課 (1940年2月)

報告者 13名。

全員でとらへても、6, 13, 20日の三日間の缺測日が出來た。木邊成齋氏が病氣の爲め入院され、報告のあたゞけなかつたのはさみしい。同氏の御坐快の一日も早からんことを、太陽課一同お祈りする。

概況 中旬は、南北ほど同程度の活動であつたが、下旬には南半球の活動が目立つてきた。大黒點としては、28日に中央子午線を通過した北 10° 附近の單獨黒點、26日に東縁に出現し翌3月2日に子午線を通過した南 4° 附近の一群の發達變化の状態が目立つた。

例月通り、沓掛、阿部、正村、津留諸氏よりは各黒點群の緯度報告をいたゞいた。(本間)

黑點相對數報告 (1934年2月)

觀測者 (觀測地)	坂上 務 (福岡市大名町)	津留 繁雄 (熊本市本莊町)	本田 實 (瀬戸觀測所)	岡林 滋樹 (倉敷天文臺)	谷口 裕康 (神戸市葦合區)	來田 晃 (大阪市大正區)	南 時生 (大阪市明星商業)	木邊 成麿 (滋賀縣中里村)	正村 一忠 (岐阜市溝旗町)	大石 辰次 (靜岡縣吉永村)	沓掛 七二 (長野縣青木村)	堀田 泰生 (橫濱市寺尾町)	阿部 正明 (東京市池袋)	岡分 英德 (東京市立一中)
口径 mm	42	130	75	75	40	50	25	75	25	55	102	20	28	100
倍率	64	45	60	60	50	53	54	60	48	64	75	50	45	32
方法	投	投	直	投	直	直	直	直	直	直	直投	直投	投	投
1日	雲	雲		60	缺		71		缺	雲	雲		61	
2	雨	雪		雲	雲		60		雲	38	雨		雲	
3	雲	雲		雲	雲			(入	雲	45	60	(9	雲	
4	雲	雲		雲	雲	36	79		雲	47	50		雲	
5	雲	雲		雲	雲				雲	60	雲		雲	
6	雲	雲		雲	雲				雲	45	雲		雲	
7	雲	雲		雲	雲			院	雲	37	雲		雲	
8	雲	雲		雲	雲		79		雲	73	雲		雲	
9	雲	雲		雲	雲		96	中	雲	71	雲	87	雲	
10	雲	雲		雲	雲	63	72		雲	66	雲		雲	
11	雲	雲		雲	雲			に	雲	62	雲		雲	
12	雲	雲		雲	雲			つ	雲	66	雲		雲	
13	雲	雲		雲	雲			き	雲	82	雲		雲	
14	雲	雲		雲	雲		103		雲	76	雲		雲	
15	雲	雲		雲	雲		115		雲	75	雲		雲	
16	雲	雲		雲	雲		90	缺	雲	62	雲		雲	
17	雲	雲		雲	雲		42	缺	雲	60	雲		雲	
18	雲	雲		雲	雲		48		雲	62	雲		雲	
19	雲	雲		雲	雲		58	潤	雲	42	雲		雲	
20	雲	雲		雲	雲				雲	42	雲		雲	
21	雲	雲		雲	雲		61		雲	49	雲		雲	
22	雲	雲		雲	雲		61		雲	63	雲		雲	
23	雲	雲		雲	雲		72		雲	51	雲		雲	
24	雲	雲		雲	雲		60		雲	66	雲		雲	
25	雲	雲		雲	雲	50	60		雲	66	雲		雲	
26	雲	雲		雲	雲		6		雲	41	雲		雲	
27	雲	雲		雲	雲		5		雲	41	雲		雲	
28	雲	雲		雲	雲		41		雲	41	雲		雲	
29	雲	雲		雲	雲		59		雲	85	雲		雲	
觀測數	9	8	13	11	8	3	21		18	15	17	4	23	
一日平均	68	66	64	64	72		67		54	60	68		71	
前月平均	70			52	105	43	57		43	40	45		55	64

★ 變光星課 (1940年1, 2月分)

嚴冬のためばかりでもあるまいが、報告者がうんと減少した。諸兄の精勵を希みます。猶ほ長週期星の極大や極小の余報期日が天界や急報誌上に掲載されてゐますから、適當な星を撰んで觀測していただきたい。さらに、小澤氏の手許で凡ての極大光度9等以上の長週期星の目錄が製作されつゝある。これも後日天界誌上に發表されるものと思ふ。も早や諸兄は御存知の事と思ふが、課長木邊氏が一月末、十二指腸潰瘍にて京都府立病院(12號61)へ入院されましたが、経過良く、去る三月15日退院、暫く御宅で休養されます。一日も早く回復されん事を祈ります。次に、簡単に、諸方から集まつた觀測報告の概略だけを示す。(岡林記)

今年は少し遅れたが去三月初めドイツのベルリン天文臺から Schneller 氏作の1940年度變光星表が到着した。之れと比較して見ると、

	1940年1月						1940年2月					
	第一部		第二部		計		第一部		第二部		計	
氏名	星數	日測數	星數	日測數	星數	日測數	星數	日測數	星數	日測數	星數	日測數
木邊成磨	3	10	19	151	22	161						
小澤喜一			25	128	25	128	18	228	7	41	25	269
岡林滋樹	3	8	6	22	9	30	7	19	8	34	15	53
杏掛七二							2	2	7	12	9	14
山田達雄	2	7			2	7						

★ 黃道光だより

(課長 山本一清)

愛知縣犬山町の山田氏と、靜岡縣片瀬の醍醐正氏とより、下の如く觀測報告があつた。

山田氏：1940年3月1日夕計1枚

醍醐氏：1939年10月15日朝，19日朝，23日朝，同2月1日夕，2日夕，3日夕，

9日夕，10日朝，11日夕，13日朝，15日朝，1940年1月27日夕，29日夕，

同2月1日夕，4日夕，7日夕，8日夕，9日夕，27日夕計19枚

尚ほ、12月1日には著しき黃道帶，又、2月7日には對日照

この頃のやうに5つの大遊星が皆西天に集つてゐるときには、夕刻の黃道光の觀測は實に困難である。それをも押し切つて、醍醐氏が西天の觀測を敢行してゐられるは感心である。金星は六月までは益々宵の空にははをきかせるから月と共に、大に黃道光觀測を妨げるに違ひない。このやうな時機に、誰か“金星による黃道光”と言つたやうなものを、發見しないものか?!